

温 研 報 執 筆 細 則

1. 本報告は、温泉の学理に関する総合的研究（温泉研究所設立の主旨による）に貢献しうる論文を優先する。又他誌に発表されていないものに限る。

2. 原稿の種類は

1. 原著論文 2. 総説 3. 資料 とする。

3. 原稿は、温研報専用の原稿用紙を用い、なるべく当用漢字を用い、口語体、新かなづかい、ひらがなまじり、横書き、楷書とする。

4. 句読点、かっことは1字分とり、改行のさいは、冒頭1字分をあける。

5. 外国語は原則としてタイプライトする。

6. 数字は、アラビア数字を用い、原稿用紙1字分に2字相当する。度量衡の単位と略号は、mm, cm, ml, μ g, g, N/10 などとし、学界の慣用を参照して使用する。数字と単位の間には、スペースをとらない。

7. 図、写真、表は別紙として必ず番号をつけ、挿入場所を本文右余白に赤インクで指定する。

図は、白紙、トレース紙または淡青色印刷の方眼紙に墨又は黒インキで、印刷の際の縮小を十分に考慮し、且つ体裁よく書くこと。

アート紙を希望する写真は、図版または、Plate として、1ページ分ごとに一括し、縦横の調和がとれ、そのページ全体に配当されるように外形を整える。

8. 原稿の構成は

1. 表題 2. 著者名 3. 所属 4. 本文（序言、実験あるいは方法、成績、考案、結論、文献） 5. 表、写真および図の順とする。

原著論文には必ず、欧文抄録をつける。抄録はタイプ印書、ダブルスペースとして、表題、著者名、所属、抄録文の順序とする。

図、表、写真の題・説明文は、別の原稿用紙に書く。

9. 文中の文献の引用は次の例にならう。

(例) a) 山田 (1976) は……, 山田 (1976a) によると……。

b) ……が知られている (山田, 1976)。

c) ……(山田, 1976a; 山田1976b; 山田と小川, 1976; YAMADA and OGAWA, 1977)。

10. 引用文献は、文献として論文末に一括し、著者名のアルファベット順、同じ著者のものは年代順とする。雑誌名の略は、医学中央雑誌, Index Medicus, 日本化学会誌, 地質学雑誌および, Chemical Abstract にしたがう。

(例) 山田太郎, 小川一夫 (1976) 中国地方の花崗岩. 岩鉱, 99, 1-100.

YAMADA, T. and OGAWA, K. (1976) Granitic rocks in the Chūgoku province, Southwest Japan. *J. Japan. Assoc. Min. Pet. Geol.* 99, 101-200.

DALY, R. A. (1914) *Igneous Rocks and their Origin*, Mc-Graw Hill, New York, N. Y., 563 pp. (末尾は総ページ数)

4名以上の共著論文の著者名は、省略して筆頭著者のみとする (山田太郎他; YAMADA, T. *et al.*)。

11. 外国語原稿は、標準型 (A4, 21×30 cm)、厚手 (不透明) の用紙を用い、ダブルスペースでタイプライトする。上、下、左、右の空白部の幅を3cm以上とる。その他は、日本語原稿の規定にしたがう。

12. 原稿の長さは、規定しない。

13. 初校は原著者が行う。

14. 原稿の切りは、原則として毎年6月30日および12月28日とする。ただし、至急掲載を希望する場合は、その旨申し出ること。